



佐賀大学

RIC

Regional Innovation Center

2023

佐賀大学

リージョナル・イノベーションセンター

成果報告書





2023
佐賀大学
リージョナル・イノベーションセンター
成果報告書

CONTENTS

01	センター長挨拶	02
02	センター概要	03
03	活動報告	05
04	研究・産学連携トピックス	09
05	佐賀大学発ベンチャー紹介	11
06	佐賀大学内の連携企業紹介	11
07	佐賀大学共同開発商品の紹介	12
08	地域と連携した取組の紹介	13
09	自治体等との連携協定	16
10	データでみる共同研究・受託研究等	17
11	産学官連携の制度	18



佐賀大学リージョナル・
イノベーションセンター
センター長 豊田 一彦

本学では、2030年を見据えた「佐賀大学のこれから－ビジョン2030－」を掲げており、社会貢献活動については、佐賀県をはじめとする周辺地域の社会変革を担う大学を目指し、産学官連携の推進による教育・研究活動の高度化を通じて、持続可能な地域社会の実現に寄与することとしています。

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターは、地域と大学をつなぐ新しい中核拠点として生まれ、このビジョンを達成するための窓口として活動しています。本センターの主な任務は産学地域連携と知財戦略・技術移転であり、ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレータ（URA）を中心として業務を行っています。産学地域連携部門では、共同研究や受託研究の受入れなどにより産業界や地域と大学をつなぎ、知財戦略・技術移転部門では、大学の研究成果を知的財産という形で社会に還元しています。このように大学と社会とを双方向につなぐことで、地域とともに発展する大学としての本学の使命を果たして参ります。

また、地域に対する「知の拠点」としての役割を果たすとともに、学内向けには科研費をはじめとする様々な外部資金の獲得に向けた支援や学内シーズの掘り起こし・マッチング、さらには大学発ベンチャー企業の創出に向けた取り組み等を行っています。

我々は、地域の皆様や自治体・企業をはじめ、学内の研究者・学生を含めたすべてのステークホルダーから頼りにされる存在になりたいと願っています。今後とも、皆様と一緒に未来を見据えたイノベーション創出の拠点として活動してまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

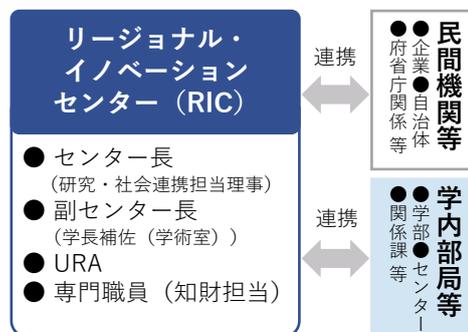
～ 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター(SURIC) の歴史 ～

- 平成24年度 これまでの産学連携、知財、地域連携に関する産学官連携推進機構および地域貢献推進室を再編し「産学・地域連携機構」を設置。
- 平成28年度 本学初のURA (University Research Administrator) を採用。
- 平成29年度 URAを2名増員。就業規則等を定めてシニアURA、主任URA、URAの体制を整備。
- 平成29年10月 「産学・地域連携機構」を発展的に廃止し、新たに研究戦略推進機能を加えた「リージョナル・イノベーションセンター」を設置。これまで以上に、地域を志向した社会貢献・研究を推進し、地域活性化の中核的拠点となることを目的とした体制へと生まれ変わる。
- 令和2年度 URAを1名増員し、URA4名体制へ。
- 令和3年9月 「産学交流プラザ」へセンター機能を移転し、更に活動を強化。
- 令和4年度 URAを1名増員し、URA5名体制へ。

02 センター概要

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターとは

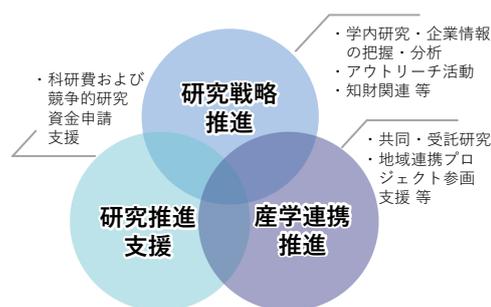
佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター（Saga University Regional Innovation Center：SURIC）は、本学の研究力の向上に向けた支援を行うとともに、佐賀県を中心とする産業界や地域機関との連携を支援します。佐賀大学の基本方針でもある、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学として、地域を志向した社会貢献・研究を推進し、地域活性化の中核的拠点となるよう大学のワンストップ窓口として活動します。



【図1】リージョナル・イノベーションセンターの概要

リサーチ・アドミニストレーターとは

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターには、URA（University Research Administrator）と呼ばれる5名のリサーチ・アドミニストレーターが在籍しています。URAは研究活動の企画・運営・成果の発信等、多様な業務に携わり、大学全体の最適化を担う新しい職種です。教員や事務職員とは異なる職種と定義され「第三の職」とも呼ばれます。



【図2】URAの業務・活動の概要

SURIC URA紹介

シニアURA 出田 光太郎

製薬企業研究所、電機メーカーでの研究および商品企画、大学発ベンチャーの創業、ビジネスインキュベーションにおける10年間のベンチャー支援、九大TLOでの技術移転業務等を経て平成29年4月より現職。

シニアURA 平山 伸

筑波大学大学院環境科学研究科環境科学専攻 博士（農学）。専門は環境科学、応用藻類学。三菱重工（株）総合研究所を経て、平成29年6月より現職。

URA 大野 富生

九州大学大学院工学研究院後期博士課程エネルギー量子工学専攻単位取得退学 博士（工学）。専門は原子力工学。第2級知的財産管理技能士。国・私立大学の研究推進・支援および産学連携部署等を歴任し平成31年4月より現職。

URA 三島 舞

佐賀大学大学院農学研究科生物生産学専攻修士（農学）。新聞社での情報誌編集者、環境系NPO、佐賀大学でのコーディネーターを経て、令和2年4月より現職。

URA 猿渡 映子

食品会社勤務を経て、九州大学に入職。約17年間にわたり産学連携コーディネータおよびURAとして研究支援や知財・産学連携支援業務に従事。令和4年8月より現職。

URAの業務・活動の概要

研究戦略推進業務

学内研究情報の把握・分析

- 学内シーズの把握を図り研究戦略マップを作成します。

企業情報の把握・分析

- 企業訪問や技術相談を通じて、主に佐賀地域企業のニーズ把握を図ります。

科学技術政策情報等の分析

- 政府の科学技術政策について策定段階からインターネットによる情報収集や関係者からのヒアリングを通じて情報収集を実施。また、同様に民間公募等の情報も分析し適切な応募活動ができるよう共有化を図ります。

アウトリーチ活動

- ホームページ等での情報発信による学外へのPR活動を実施し、発信力・ブランド力の強化に務め積極的に広報をします。

イベント関連

- 競争的資金獲得を目指した説明会の開催や技術シーズマッチングイベントへの参加を支援します。

知財関連

- 教職員・学生への知財啓発・教育と、教員への知財相談、知財戦略支援を実施します。

ベンチャー創出支援

- 大学発ベンチャー設立の機運を高めるため、関係情報の周知及び教員・学生とVC（ベンチャー・キャピタル）等との連携を図り、大学発ベンチャー創出を支援します。

情報収集活動・NW構築活動

- URA業務遂行にあたり必要な情報の収集と人脈形成を実施します。

産学連携推進業務

共同研究・受託研究

- 企業訪問やイベント等を通じて研究者と企業のマッチングを実施し、共同研究・受託研究への締結を促します。

地域連携プロジェクト参画支援

- 佐賀地域の自治体および企業が推進するプロジェクトに積極的に参画し有効な成果を達成できるよう、交渉・マネジメントを実施します。

研究プロジェクト企画立案

- URA自らが企画する研究プロジェクトを立案し、研究チームの編成、参画交渉調整を実施し、競争的資金申請を支援します。

研究推進支援業務

科研費申請支援

研究者の申請についてブラッシュアップ支援を実施し申請および採択数の増加を図ります。

競争的研究資金申請支援

ブラッシュアップ支援を実施し競争的資金への申請および採択数の増加を図ります。

03 活動報告

研究戦略推進の主な取り組み

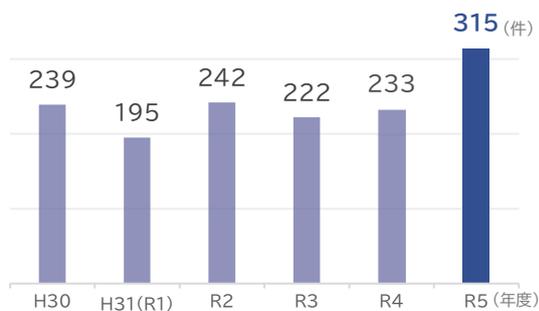
- ・ 学内研究情報の把握・分析
- ・ 企業情報の把握・分析
- ・ 科学技術政策情報等の分析
- ・ アウトリーチ活動
- ・ イベント関連
- ・ 知財関連
- ・ ベンチャー創出支援
- ・ 情報収集活動・NW構築活動

学内研究情報・ 企業情報の 把握・分析

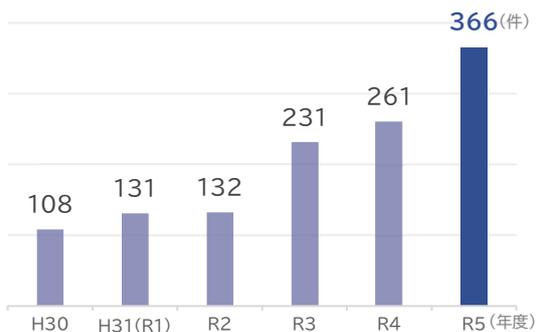
● URAによるシーズ・ニーズ把握

研究者から寄せられる各種相談対応及び学内研究情報（シーズ）および企業情報（ニーズ）の把握のため、令和5年度は「教員（研究室）訪問」を315件実施。また、「企業、地域および自治体等からの相談」を366件、「企業、地域および自治体等への訪問」を100件実施しました。

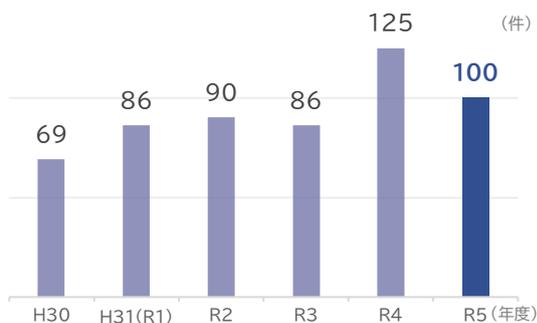
教員（研究室）訪問件数



企業、地域および自治体からの相談件数



企業、地域および自治体等への訪問



● 佐賀大学研究戦略マップの更新

国の戦略と地域のニーズを照らし合わせて策定した6つの研究戦略領域について、SDGsの概念も取り入れて研究戦略マップを更新しました。リージョナル・イノベーションセンターのホームページで公開しています。

研究戦略マップは ▶
こちら



アウトリーチ 活動

● ホームページでの教員紹介

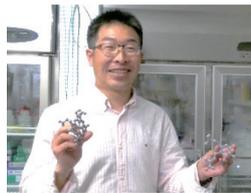
各学部でユニークな研究を行っている教員に独自インタビューし、学術的な研究者データベース等とは異なる切り口で研究の面白さ等をお伝えしています。令和5年度は4名の教員にインタビューし、ホームページには約30名のインタビュー記事を掲載しています。

ホームページのアクセス解析の結果でも毎月アクセス数上位に位置する人気コンテンツとなっており、今後も掲載を拡大していく予定です。

※下記の職名は教員インタビュー時のものです。



医学系
柴山 薫 助教



農学系
堀谷 正樹 准教授



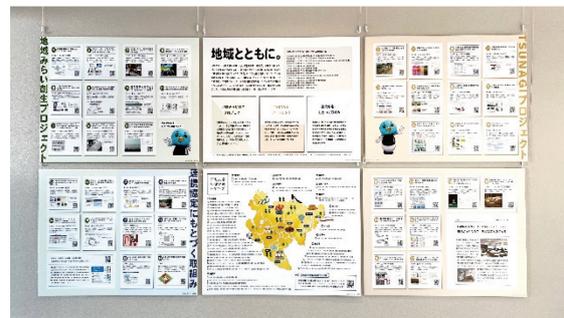
経済学系
茵田 竜之介 准教授



理工学系
椿 耕太郎 助教

● 佐賀大学地域連携紹介ポスターでの広報

令和5年度より産学交流プラザ1階北側出入口ホールに「佐賀大学地域連携紹介ポスター」を掲示しました。地域と共に取り組むプロジェクト等について紹介しています。本ポスターには、教員から企業・自治体へ向けたメッセージも記載されているので、本学に来られた際はぜひお立ち寄りください。



佐賀大学地域連携紹介ポスター

● 産学交流プラザでの研究成果展

産学交流プラザ1階「インフォメーションコーナー」において本学の研究成果を紹介する企画展を実施しています。

本コーナーには、本学の歴史や施設を紹介するパネル、学部・研究紹介の動画を放映しています。

SURICのHPは ▶
こちら



ベンチャー 創出支援

● 起業家育成講演会の開催

佐賀大学発ベンチャーの創出・育成・支援の取り組み強化と本学の研究活性化のため、教員・学生等を対象とした起業家育成講演会（全5回）を開催しました。

受講者アンケートから、講演内容の満足度は91%と高く、「参加してよかった」「起業へのイメージが湧いた」等の感想が多数ありました。

● 佐賀大学発ベンチャーの育成・支援

令和元年6月に、研究成果を活用した新事業の支援等を目的に大学発ベンチャーに関する学内規程を整備しました。令和5年度末までに、佐賀大学発ベンチャーとして認定を受けた企業（認定ベンチャー）は6社あります。

● コワーキングスペースの活用

起業に興味のある学生や、認定ベンチャー関係者等が情報交換を行い、スキルアップのためのセミナーを開催する場として「コワーキングスペース」を産学交流プラザ2階に整備しました。令和5年度は、独立行政法人中小企業基盤整備機構、株式会社佐賀銀行との共催で学生向け起業セミナーを開催しました。本セミナーでは、学生のアントレプレナーシップ醸成を目的としており、全5回のシリーズで体系的にビジネスのアイデア発想法等について学びました。また、大学発ベンチャーを育成・支援、フォローする仕組みづくりの一環として、アイデアピッチイベントを開催しました。本イベントには認定ベンチャー、

令和5年度開催スケジュール

第1回 (12/20)	「『ペット』業界での起業」 原田和寿氏 Buddycare(株) 代表取締役 CEO
第2回 (1/17)	「『観光』業界での起業」(中止) 大城美佳氏 (株)小石原ドットコム代表取締役会長
第3回 (1/24)	「『宇宙』業界での起業」 高橋鷹山氏 (株)OUTSENSE 代表取締役
第4回 (1/24)	「『食品』業界での起業」 小山正浩氏 (株)ウェルナス 代表取締役
第5回 (1/31)	「佐賀大学発ベンチャーと知的財産」 平山伸氏 SURIC URA

また、起業家育成の機運醸成と学生による認定ベンチャーの増加等の推進のため、令和3年度から産学交流プラザ2階を「学生ベンチャースペース」として開所し、認定ベンチャーには無償で貸し出しています。

※認定ベンチャーの一覧は11ページをご参照ください。

起業している学生及びビジネスプランを考えている学生が参加し、最優秀賞には「株式会社SA-GA」、優秀賞には「合同会社sunapp」が選ばれました。今後も様々なセミナーやイベントを開催し、起業家育成の場としての定着を目指します。



アイデアピッチイベントの参加者



産学連携推進の主な取り組み

- ・ 共同研究・受託研究
- ・ 地域連携プロジェクト企画立案
- ・ 地域連携プロジェクト参画支援

共同研究・ 受託研究

● 地域の企業等との連携推進

第4期中期目標期間（令和4～9年度）においては、地域の企業等との共同研究等を推進することを計画に掲げています。共同研究等から生まれた新たな技術や知見を実装化することで、地域全体の発展を促進します。

※共同研究・受託研究数は17ページをご参照ください。

地域連携 プロジェクト 参画支援

● 地方自治体等との連携

地域の課題解決に向け、佐賀県をはじめとする地方自治体等との連携により、地域の特色を活かした取組を展開。大学独自の研究支援「地域みらい創生プロジェクト」では、将来的に研究成果が自治体の施策立案に還元される等、発展的な研究の実施を目指しています。

※地域連携の具体的な取り組みについては、13～15ページをご参照ください。



研究推進支援の主な取り組み

- ・ 外部資金の獲得
- ・ 個々の教員の研究力向上

科研費をはじめとする競争的 研究資金への申請支援

● 科研費等の獲得に向けた取り組み

科研費獲得に向けた説明会（令和5年6月15日、令和6年3月7日）の開催や、科研費申請書（研究計画調書）の作成支援として、研究担当理事による「特進クラス」やURAによる「ブラッシュアッププログラム」、さらに研究計画調書模範例を学内に限定して開示しました。

その他、佐賀県をはじめとする行政機関、厚生労働省、経済産業省等が公募する外部研究資金の獲得に向け、URAを中心として組織的に支援しています。

研究力向上に向けた論文投稿等 に関する各種支援

● 教員の論文発表を支援する取り組み

ジャーナルへの論文投稿や学会発表は、教員の研究成果を社会に示すとともに、大学の研究力を表す指標となります。本学では、高IFジャーナル^{※1}への掲載や、Top10%論文^{※2}を発表した研究者への研究費支援、英語論文投稿にかかる経費支援等を実施しています。

さらに九州地区国立大学と連携し、教育系・文系研究論文集を発行するなど、研究内容が広く周知され、その成果が社会へ還元される取り組みを行っています。

※1：社会に与える影響（インパクト）が大きいジャーナルのこと

※2：その論文の被引用数が各分野の上位10%に入る論文のこと

04 研究・産学連携トピックス

注目の研究

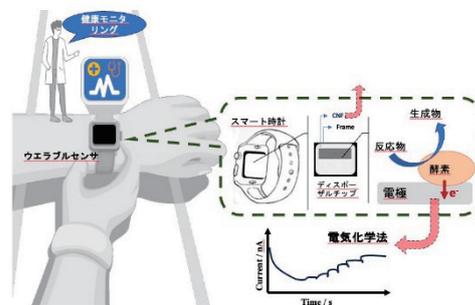


ウェアラブル皮膚ガスセンサー 関連研究

研究代表者
理工学系 富永 昌人 教授

富永教授の研究グループは、従来の半導体ガスセンサーに比べて「ガスの選択性」と「感度」に優れた酵素修飾型の皮膚ガスセンサーの研究を進めています。薄膜フィルムからなるセンサー（酵素薄膜センサー）はウェアラブル性が極めて高く、スマートウォッチに内蔵できる超小型測定デバイスの開発が可能です。既に皮膚からのアルコールガス、アセトアルデヒドガスの連続測定に成功しています。今後適切な酵素を用いることで、個人の健康管理に有用な生体ガスの多種類同時検出や、特異的で高感度な環境センサー等への応用が期待されます。

● 令和4年7月25日プレスリリース
貼るだけ、皮膚からのアルコールを超高感度に検出



【図1】将来の実用化のイメージ



プラントベースフード 関連研究

研究代表者
農学系 渡邊 啓史 准教授

渡邊准教授の研究グループは、伊藤忠エネクス株式会社、不二製油グループ本社株式会社、大和ハウス工業株式会社と共同で、佐賀市の清掃工業から排出される二酸化炭素（CO₂）を利用し、貴重なたんぱく源である大豆の効率的な生産により、プラントベースフード（PBF）^{※3}の利用拡大を目指す研究プロジェクトを産学官連携により進めています。このプロジェクトにより、プロテインクライシス社会問題の解決が期待されます。

● 令和4年5月24日佐賀大Press
佐賀大学が佐賀市・伊藤忠エネクス・不二製油グループ本社と共同し、CO₂を活用した大豆育成研究プロジェクト開始



人工気象環境下で生育している大豆 ▶

※3：PBFとは、植物性原料で動物性食品を再現する次世代食です。



令和5年度の研究関連プレスリリース ※一部抜粋

● 令和5年04月18日

可視光全域から近赤外900nm光までの光酸化作用を発見 ～ペルオキシチタン錯体薄膜で環境浄化範囲が大きく拡大～

● 令和5年06月09日

肺腺がんリスクを決める遺伝子の個人差を同定 非喫煙者の肺腺がんリスクの予測に期待

● 令和5年06月09日

イオン液体中に存在する亜鉛イオンの構造を決定

● 令和5年07月03日

バイオ3Dプリンターを使って新たな動脈硬化症研究モデルを開発しました

● 令和5年07月21日

皮膚の表皮細胞が温かいと感じる温度感覚を生み出していることを発見

● 令和5年08月01日

研究成果報告会「セラミックス廃棄物の検知と有効利用」の開催

● 令和5年08月04日

植物の低栄養耐性にmRNA配列調節が関わることを発見

● 令和5年09月07日

佐賀大学医学部附属病院 総合診療部から 日本病院総合診療医学会主導の原因不明の腹痛に関する研究成果を報告

● 令和5年09月07日

佐賀大学医学部附属病院 総合診療部から 日本病院総合診療医学会主導のCOVID-19流行時の病院総合診療医の貢献に関する研究成果を報告

● 令和5年09月19日

佐賀大学 クラウドファンディングの公開 ～アトピー性皮膚炎 | 痒みの仕組みの解明と、治療薬の開発研究にご支援を～

● 令和5年09月20日

農学部 宮本准教授による「土砂災害を事前に検知するシステム」の現場視察について

● 令和5年10月02日

共同研究講座：さが藻類産業共同研究講座を設置

● 令和5年10月13日

令和5年度TSUNAGIプロジェクトの連携事業に取り組んでいます

● 令和5年11月08日

非喫煙者に多いEGFR変異肺腺がんへのかかりやすさを解明 肺腺がんの予防・早期発見にむけた手がかりとして期待

● 令和5年11月30日

理工学部化学部門 海野 雅司 教授、藤澤 知績 准教授らが希土類元素を含む 化合物の構造解析に成功～生体医学や画像検査技術に新たな知見を提供～

● 令和5年12月05日

「九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（ギャップ資金）」に2件の研究が交付決定されました

● 令和5年12月07日

ダイズ油脂に含まれるフラン酸の合成に関与する遺伝子を発見

● 令和5年12月18日

海苔の油で脂肪肝改善！肝臓のアラキドン酸とリノール酸代謝に影響

● 令和6年02月29日

絶滅が危惧される薬用植物「ムラサキ」の葉緑体ゲノムを完全解読しました

● 令和6年03月04日

植物型 α 1,3/ α 1,4-フコース転移酵素を持つユニークなI型二糖構造認識機序を明らかにしました

● 令和6年03月22日

佐賀大学で開発された近赤外ラマン光学活性分光による生体関連分子の構造解析に関する研究成果をまとめた総説を発表 ～太陽光の有効活用や医療研究への応用に新たな知見を提供～

● 令和6年03月26日

お酒を飲むと顔が赤くなるアジア人フラッシュ体質が新型コロナウイルス感染症に対し防御的であることを報告

● 令和6年03月26日

自己免疫性1型糖尿病の発症に関わる分子を発見

05 佐賀大学発ベンチャー紹介

佐賀大学発ベンチャー（認定大学発ベンチャー）の紹介

佐賀大学発ベンチャーは、株式会社ゼネシスや株式会社オプティム（東証プライム市場上場）等、17社です。また、令和元年度に制定した「佐賀大学発ベンチャーに係る称号授与及び支援に関する規定」により「佐賀大学発ベンチャー」の称号を受けた企業は以下の6社です。

代表取締役社長 山城 佑太
(学部4年次に起業)

山城機巧

株式会社山城機巧は、腰の負担を軽減する用具「フワット」等を開発し販売。「福祉機器コンテスト」や「さがラボチャレンジカップ2019」で入賞し、令和2年には「キャンパスベンチャーグランプリ」の全国大会で最優秀賞を受賞。

代表取締役 浅川 泰輝
(学部4年次に起業)

AS

学部4年次に株式会社AS（アズ）を起業。インターネットを使ったモバイルオーダーシステム「ASオーダー」を提供。本システムの活用によりイベント等での“どこでもフードコート”が可能。「さがラボチャレンジカップ2020」で最優秀賞を受賞。

代表取締役 梶原 薪
(博士後期課程1年次に起業)

NEXS

学部4年次にこども園の通学バスの位置情報を知らせるサービスで、研究室初の起業となる合同会社ロケモAIを起業。その後、博士後期課程1年次に株式会社NEXS（ネクシス）を起業。スマートロックを活用するシステムで「さがラボチャレンジカップ2021」最優秀賞を受賞。

代表取締役社長 森山 裕鷹
(学部4年次に起業)

株式会社 **SA-GA**

学部4年次に株式会社SA-GA（エスエージーエー）を起業。ブロックチェーンを研究し、複数の特許を取得。特許の製品化をきっかけに起業し、現在は学校の先生たちの業務負担軽減のために、学校PAY@で校納金等のキャッシュレス化に取り組む。

取締役社長 濱田 悠菜
(学部4年次に取締役社長就任)

テトラクリエイト

テトラクリエイト株式会社を令和2年9月に設立、令和4年8月佐賀大学発ベンチャー企業に認定。農学部での研究成果をもとに腎性貧血の治療薬での利用を目指した化合物PyrzAを開発し、研究用試薬として同化合物を富士フィルム和光株式会社から販売。現在、薬として市場に出すための研究開発に取り組む。

代表取締役 北原 誠大
(学部4年次に起業)

WIDE

株式会社WIDE（ワイド）は、部活動と外部指導者のマッチングサービス『SUKUSUPO』の運営、部活動の応援消費サイトの運営等、さまざまな角度から学生スポーツの環境向上に取り組む。すべての子どもたちが素晴らしい環境でスポーツに取り組める社会づくりに尽力する。

06 佐賀大学内の連携企業紹介

佐賀大学にオフィスのある企業10社

※記載している企業は令和6年3月末時点のものです。

- 株式会社オプティム
- Citynow Asia株式会社
- 株式会社佐賀電算センター
- 株式会社中山ホールディングス
- 株式会社メタルジャケット
- 株式会社コンピュータ技研
- 福博印刷株式会社
- 株式会社農研堂
- 株式会社サガテレビ
- 株式会社佐賀新聞社

07 佐賀大学共同開発商品の紹介

これまでの共同開発商品

● ラベル選べる冷用酒

さが県産品流通デザイン公社は、本学芸術地域デザイン学部の学生と窓乃梅酒造株式会社との産学官連携で日本酒ラベルのデザインを開発。「日本酒ラベル総選挙」にて人気の高かった3デザインの商品を、佐賀の県産品を厳選したセレクトショップ「SAGA MADDO」にて販売。

● アクティブムーブチェア Weltz-self (ウェルツ-セルフ)

本学と株式会社オカムラを中心にした研究開発チームが開発した、座ったままでの安心・安全な移動を実現するユニバーサルデザインなオフィスチェア。

● 規格外のブドウを使ったドレッシング

本学と福岡県八女市ブドウ農家（ROC IA SAGA合同会社 代表 井手一郎）が共同開発した、規格外のブドウを使ったドレッシング。食べられるものが廃棄される「食品ロス」を減らす取り組みでもある。

● よ〜うかんがえる合格ようかん

九州経済産業局と本学URAの協力のもと、小城羊羹の製造・販売を行っている有限会社桜月堂と本学芸術地域デザイン学部の学生が商品化した小城羊羹。

● フワット 腰を浮かせる座圧軽減装具

本学教員が考案、佐賀大学発ベンチャーの株式会社山城機巧が商品化。腰痛に悩む方に、腰を浮かせて座圧を軽減する装置。

● J-Bridgeシステム

本学と河合塾で共同開発した、受験生が入力した活動記録や資格、各種大会の記録を選抜規準（ループリック）を用いてパソコン上で選抜の一部を実施できるシステム。

● 乳酸菌100億ライス

本学と有限会社マインドバンクが、日々のご飯で乳酸菌が摂れる！"お茶碗一杯100億個" 特許に基づき製造した日本初の乳酸菌含有米。

● 理科実験用の補充部品 ループピアノ線

本学教員が考案し、株式会社ナリカが製品化したループピアノ線。

● CBT (Computer Based Testing)

本学と株式会社佐賀電算センターで共同研究開発。「思考力・判断力・表現力」等の能力領域について、デジタル技術を活用して評価を試みる。ペーパーの問題ではできない動画を用いた出題や、タブレット機能を活用したテスト。

● サンフラワーポテト (キクイモ)

本学で選抜・商標登録を行った機能性野菜キクイモの新系統。血糖値の上昇抑制や腸内環境の改善等の効果が見られる機能性成分「イヌリン」を従来のキクイモよりも豊富に含んでいる。

● 手首と肘への負担を軽減する授乳補助 クッション

本学教員考案、株式会社赤ちゃんの城で製品化。授乳時の手首と肘への負担を軽減する授乳補助クッション。第10回「キッズデザイン賞」受賞。

● 乳幼児用おくるみ

本学教員考案、株式会社赤ちゃんの城で製品化。モロー反射を防ぐ等、新生児がよく眠るよう工夫されたおくるみ。

● 腱鞘炎サポーター

本学とイイダ靴下株式会社で共同開発した産後の女性に多く見られる腱鞘炎を予防するサポーター。

● さがんルビーを原料のスキンケア製品

本学で研究開発を行い、日本で初めて品種登録された国産の「グレープフルーツ」を原料としたスキンケア製品。

● フォーケア多機能いす

本学と有限会社ビューティフルライフで共同開発。理美容室のいすのような多機能性に加え長時間座れる構造も取り入れた利用者に優しい車いす。

知財活用の実績は下記サイトからも確認できます。

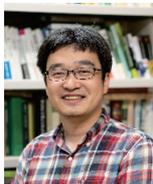
● RICホームページ

「実用化事例」

https://www.suric.saga-u.ac.jp/chizai_tech/brand.html



特集：令和5年度注目の地域との取り組み



佐賀大学×佐賀県
〈むし〉でつながる佐賀とひと
SAGAむし結び
農学系 徳田 誠 教授

2023年9月に日本昆虫学会第83回大会が佐賀県で初開催されました。これを契機として、県内の様々な施設と連携して8月から9月にかけて昆虫関連の企画を開催し、全体を「SAGAむし結び」として繋ぎました。期間中は佐賀大学発ベンチャーの合同会社ロケモAI提供によるオンラインスタンプラリーを実施しました。イベントを通して県特有の自然環境や昆虫等を知ってもらうとともに、佐賀大学の研究成果を紹介し、生物多様性や自然保護への理解を深めるきっかけとなりました。



SAGAむし結びのポスター



実際のイベントの様子①

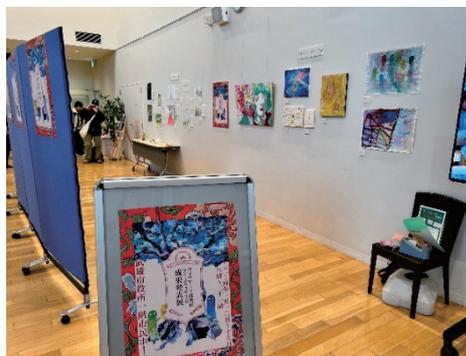


実際のイベントの様子②



佐賀大学×武雄市
地域創生フィールドワーク
アートプロジェクト
芸術学系 山口 夕妃子 教授

令和4年4月27日に締結した佐賀大学芸術地域デザイン学部と武雄市との連携協定に基づき、武雄市長をはじめ市役所の方、住民の方などに向け、学生がアートによる新たなまちづくり企画を提案しました。武雄市のまちなちにぎわい創出や市民の方にアート触れる機会をという観点からアートイベント「ライブアート温泉街2023～アートと巡る四千支珍道中～」や「シン・スケッチ大会」を開催しました。2つのイベントで制作された作品は、武雄市役所市民ホールにて成果発表展が行われ、多くの武雄市民の方や来訪者の方に鑑賞して頂きました。



成果発表展の様子



作品制作の様子①



作品制作の様子②



作品制作の様子③

自治体等との連携プロジェクト

学内の研究支援プロジェクト 地域みらい創生プロジェクト

地域みらい創生プロジェクトは本学の研究の質の向上を図り、地域との連携をさらに深めることを目的として、令和4年度から開始しました。令和5年度は佐賀県、鹿島市、有田町などを対象に、以下24件の研究課題に取り組みました。

● 令和5年度研究テーマ

「佐賀県」との取り組み

- 姿勢検知技術を応用した人の意図分析技術の研究開発／理工学系 中山功一准教授
- 佐賀県果試35号（'にじゅうまる'）の貯蔵期間における品質変化プロファイル解明／農学系 古藤田信博教授
- 高オレイン酸ダイズ「佐大HO1号」の後継品種の育成／農学系 渡邊啓史准教授
- HPLCを用いたノリ含有水溶性ビタミン測定技術の開発／農学系 木村圭准教授
- 学校・地域訪問型 算数・数学教育推進プロジェクト／教育学系 米田重和教授
- 佐賀大探究お助け隊～SAGA STEAM教育 eco systemの構築～／教育学系 後藤大二郎准教授
- 女子中高生アスリートのセルフケアサポートプロジェクト／医学系 榊原愛助教
- 佐賀県農業経営体における外国人農業労働力受入実態の解明と優秀なベトナム人農業人材の確保に向けた基礎研究／農学系 辻一成准教授

「佐賀市」との取り組み

- 地域に根差した高齢者単独世帯の孤独死・突然死回避のシステム構築／医学系 古川祐太郎医員

「唐津市」との取り組み

- 沿岸漁業向け監視装置の開発／理工学系 今井康貴准教授
- 唐津の中山間地域の振興に向けた健康・美容機能を持つ新たな特産品づくり／農学系 松本雄一講師
- 窒素固定増強遺伝子SEN1を導入したダイズの評価及び新規ダイズの創生／農学系 下村彩助教



「武雄市」との取り組み

- 武雄市における文化を起点とした地域創生マーケティングの可能性／芸術学系 山口夕妃子教授
- 武雄鍋島家・鍋島茂義の佐賀藩における政治的活動に関する研究／教育学系 伊藤昭弘教授
- 「武雄市気候変動対応モデル都市構想」策定に向けた治水とまちづくりの連携強化に関する研究／理工学系 大串浩一郎教授

「鹿島市」との取り組み

- 産学官協働による生物多様性研究を生かした地域振興モデルの実証試験／農学系 徳田誠教授
- Total small vessel disease scoreに対する遺伝子多型の影響:The Kashima Scan Study／医学系 鈴山耕平助教
- 鹿島の魅力をインバウンドにつなぐ／教育学系 石松弘幸准教授
- 肥前浜宿の歴史的町並みの保存活用に関わる建築設計とICT活用型まちづくり研究／理工学系 三島伸雄教授

「小城市」との取り組み

- さが妊娠・子育て応援DX／理工学系 山口暢彦准教授

「有田町」との取り組み

- ARITA×SOGETSU PROJECTからの発展 有田焼職人のドキュメンタリー映像制作を通じた人材育成の実践的研究／芸術学系 本田智子准教授
- 生活形態の復元的検証を踏まえた有田陶器市時の町並みデザインに関する研究と提案／理工学系 宮原真美子准教授
- 天草磁器土を原料とする強化磁器の高性能化／理工学系 三沢達也助教
- 有田焼の耐衝撃特性向上に関する研究／芸術学系 HAO DONG非常勤博士研究員

09 自治体等との連携協定

協定先及び協定名一覧

● 佐賀県／平成17年5月

「アジアのハリウッド構想」に関する佐賀県と国立大学法人佐賀大学との相互協力協定

● 佐賀県小城市／平成17年12月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県小城市との相互協力協定

● 佐賀県鹿島市／平成18年7月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県鹿島市との相互協力協定

● 佐賀県唐津市／平成18年10月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県唐津市との相互協力協定

● 佐賀県佐賀市／平成19年11月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県佐賀市との相互協力協定

● 佐賀県、佐賀市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会／平成20年10月

佐賀県における産学官包括連携協定

● 佐賀県鳥栖市／平成23年11月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県鳥栖市との相互協力協定

● 株式会社サガン・ドリームス／平成23年12月

国立大学法人佐賀大学と株式会社サガン・ドリームスとのスポーツ文化を通じた地域づくりに関する連携協力協定

● 伊万里市、久米島／平成28年7月

海洋温度差発電の研究開発及び利活用並びに地域交流の推進に関する連携協定

● 佐賀県佐賀市、筑波大学／平成28年8月

佐賀市における藻類バイオマスの活用に関する開発研究協定

● 株式会社オプティム／平成29年5月※令和5年1月

国立大学法人佐賀大学と株式会社オプティムとの間における包括的な連携推進に関する協定

● 長崎大学、長崎国際大学、長崎純心大学、長崎外国語大学、長崎短期大学、長崎県立大学、長崎総合科学大学、活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎女子短期大学、西九州大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、九州龍谷短期大学、長崎県、佐世保市、長崎経済同友会、佐賀県、佐賀県商工会議所連合会、精華女子短期大学、香蘭女子短期大学／平成29年10月

九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォームに関する協定

● 株式会社佐賀銀行、株式会社佐賀キャピタル&コンサルティング／平成29年12月※令和6年2月

産学金連携の協力推進に係る協定

● 佐賀県有田町／平成30年12月※令和3年12月

国立大学法人佐賀大学と佐賀県有田町との包括連携に関する協定

● Citynow Asia株式会社／平成31年3月

佐賀大学とCitynow Asia株式会社との人材育成及び共同研究事業に係る協定

● 佐賀県／令和元年10月

佐賀県と国立大学法人佐賀大学との間における再生可能エネルギー等先進県実現に向けた連携協定

● 株式会社佐賀電算センター／令和2年3月

国立大学法人佐賀と株式会社佐賀電算センターの包括的な連携推進に係る協定

● 株式会社サガテレビ／令和4年2月

国立大学法人佐賀大学と株式会社サガテレビとの連携に関する協定

● 株式会社佐賀新聞社／令和4年3月

国立大学法人佐賀大学と株式会社佐賀新聞社との連携に関する協定

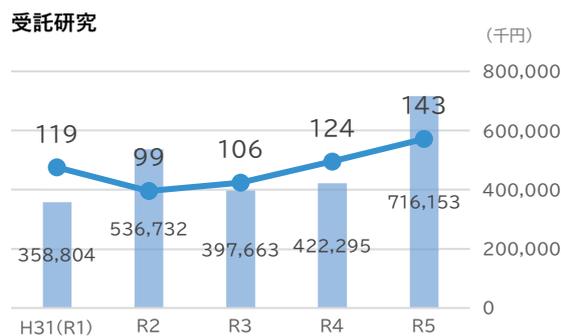
● 佐賀県首都圏事務所／令和4年3月

国立大学法人佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターと佐賀県首都圏事務所との連携・協力に関する協定

10 データでみる共同研究・受託研究等

共同・受託研究および共同・受託事業の推移

令和5年度の共同・受託研究は、令和4年度と比較して、共同研究数は10件、研究費は約1,800万円減少しました。受託研究は研究数が19件、研究費は約3億円の増加となりました。



令和5年度の共同・受託事業は、令和4年度と比較して、共同事業数は変わらず、事業費は約440万円増加しました。一方で、受託事業数は8件の減少となりましたが、事業費は約1800万円の増加となりました。また、令和5年度の特許権実施料収入は、令和4年度と比べ、約2000万円増加しました。



公開特許情報

佐賀大学の特許情報は、下記サイトで検索できます。

● RICホームページ
「公開特許情報」

https://www.suric.saga-u.ac.jp/chizai_tech/patent.html



11 産学官連携の制度

産学官連携のための制度の紹介

	学術 コンサル ティング	共同研究	受託研究	共同研究 講座	寄附講座	寄附金
	教員が専門的 知識に基づき 指導・助言	教員と特定の 課題について 共同して行う 研究	委託を受けて 指定された課 題で行う研究	大学内に講座 を設置して共 同研究を実施	民間等からの 寄附での研究 教育の進展・ 充実を図る	研究教育の奨 励等に充てる ことを目的と して受入
知的 財産権	— ^{※1}	共有可 ^{※2}	大学に 帰属	共有可 ^{※2}	大学に 帰属	大学に 帰属
経費	学術コン サルティ ング料	共同 研究費	受託 研究費	共同 研究費	寄附金	寄附金
講座の 設置	—	—	—	○	○	—
契約の 締結	— ^{※3}	○	○	○	—	—
研究 体制	教員個人 対企業等	教員個人 対企業等	教員個人 対企業等	大学対 企業等	—	—
間接 経費	—	30%	30%	30% (人件費 を除く)	0%	10%

※1 知的財産は発生しないことを前提とします。

※2 権利帰属・持ち分比率等については協議します。

※3 本学の約款に同意の上、申請書を提出いただきます。

- 企業等が大学と共同研究を行う場合、企業等が支出した研究費の一定割合を、法人税（所得税）から控除することが可能です。
税制度に係る詳細は経済産業省ホームページ等でご確認ください。
- 上記の内容は変更することがございます。
最新の情報につきましては、リージョナル・イノベーションセンターまでお問い合わせください。

産学連携のための
諸制度の詳細は
こちら



令和5年度
佐賀大学
リージョナル・イノベーションセンター
成果報告書

発行日：令和6年7月31日
発行：佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

※本報告書の組織名称や役職等は令和6年3月末時点のものです。



アクセス方法

- 交通案内
佐賀駅バスセンターからバスで約15分
佐賀駅からタクシーで約10分
佐賀空港からタクシーで約20分
- 車両入構について
構内への入構は原則として入構料金が必要です。
※ 入構から1時間毎に100円加算されます。（最大料金の設定なし）
※ 短時間利用（1時間以内）は無料です。



佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター

佐賀県佐賀市本庄町1

TEL : 0952-28-8151 / FAX : 0952-28-8186
(佐賀大学本庄キャンパス 産学交流プラザ内)

佐賀大学 RIC 
(<https://www.suric.saga-u.ac.jp>)



発行日：2024年7月